

森と緑の未来を創造する 日吉町森林組合

知っところ!!!

新春刊

No.129/ 2022 / New Year

森林組合つうしん



「新年のあいさつ」・・・P1

も

事業1課

森林プランナーはこんな仕事・・・P2

事業2課

林業現場はこんな作業・・・P3

く

店舗(森の道具屋)

『森の道具屋』はこんな店・・・P4

じ

総務課

こんなご相談は総務課へ・・・P5

編集後記・・・P6



新年のあいさつ



代表理事組合長 湯浅 勲

明けましておめでとうございます。

組合員の皆様方におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は、森林組合の業務運営に深いご理解とご協力を賜りましたことに対し、この紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。

さて、去年は、年明け早々に新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されるなど、前年に続き、コロナに翻弄されたような1年となりました。

東京オリンピックが成功裏に終わったこと、経済が持ち直す気配を見せ始めたこと、希望する国民のほとんどにワクチンが行きわたったことくらいが、明るいニュースではなかったでしょうか。

そうした中、森林・林業・木材関係者にとっては「ウッドショック」がいい意味での驚きだったと思います。世界の主だった都市の多くがコロナでロックダウンしている中で木材価格が2倍近くにハネ上がるなど、誰が予想できたでしょう。少なくとも、私は驚きました。木材価格がハネ上がったことは、森林・林業関係者にとって嬉しい誤算となったことに間違いありません。

さて、今年はどうなるか。コロナに関しては、南アフリカで見つかったオミクロン株と呼ぶ新たな変異株に世界中が緊張していますから、引き続きマスクや手洗いなどの感染対策を緩める訳にはいかないようです。

また、木材価格については、世界的な温暖化対策や資源高騰の流れがある一方で、コロナの蔓延如何によって世界の経済がどう動くかわからないので、短期的には不透明な状況です。ただ、長期的に見れば、世界の人口は増加し続け、森林資源がどんどん減少している状況を考えると、どこかの時点で需要と供給のバランスが崩れ、木材資源の価格が高騰すると考えることが自然だと思います。

したがって日吉町森林組合としては、今年も昨年までと同様に、組合員の皆様の森林整備を中心として事業を推進していく所存であります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

森林プランナーはこんな仕事

私たち事業1課は5名（職員4名・パート1名）の課員がおり、内4名は「森林プランナー」という資格を有しております。

主な業務は、森林の現在の状態を調査し、そこから得た情報をもとに現時点における必要な手入れの提案をさせていただくことです。また、所有森林を今後どのように管理していくのがいいのかを、組合員様一人ひとりの想いや取り巻く状況に合わせて、提案をさせていただき役割を担っております。

私たちは現場で木を伐ったり、山から木材を出してくるという作業はしておらず、現場作業を担う事業2課（詳細は後述）と連携して、森林の価値を高め、また伐り出した木材の売り上げを少しでも多くご返却出来るよう日々研鑽しております。

森林や木のことについて、ご不明な点等ございましたらお気軽にご連絡ください。



また、台風の大型化に伴いご自宅の庭木や裏山の木、神社やお寺の境内に立っている巨木の伐採（以下、特殊伐採と言います）などのご依頼をいただくことも多く、この特殊伐採の見積りも担当しております。

年末からの大雪で「あれ？あの木ちょっと傾いたんちゃう？」や「いつ何があるか分からんし、裏の大木伐っとこかな」など、少しでも心配な木があればお気軽にご相談ください。御見積りは無料でさせていただきます。



事業 2 課

林業現場の仕事はこんな作業

私たち事業 2 課には 10 名の課員がおり、森林プランナーがお客様から了解を得た森林整備のプランを、実際に実行していくことが役割となっています。

プランを基に間伐を行い、高性能林業機械と呼ばれる林業専用の大型重機で、間伐した木を一番高く売れる出荷先の規格に併せて造材（玉伐り）し、山から搬出（持出）します。

木の伐り方やどの出荷先に売るかで、木材価格は大きく変わってしまうので、少しでも多くの木材代金を所有者の皆様へ返却できるよう、また、手入れした後の森林を、所有者の方が見て喜んでいただけるよう、日々励んでおります。



10 名の内、木の伐採を専門に行う職員は 6 名おり、林齢の若い木から、80 年・90 年以上の太い木まで、どんな木でも伐採するスペシャリストです。

もちろんただ単に木が伐れるというだけではなく、森林の価値を上げることを考えた選木（残す木・伐る木を選ぶこと）を行う知識と経験も兼ね備えております。

残りの 4 名は林業機械を操作する専門職員で、町内に整備した約 380km の作業道などを活用し、年間約 15,000m³（府内トップクラス）の間伐材を山から搬出しております。

今後はさらに木材生産効率を向上させ、木材生産コストを低減し、できるだけ多くの木材売上代金を森林所有者の皆様へ返却できるよう努力してまいります。



「新年のあいさつ」で組合長も触れたように、長期的に考えると森林資源は極めて重要かつ貴重な資源になると予想されます。

それがいつかは分かりませんが、我々職員は全員退職しているかもしれません。しかし、「今の価値ある森は、きちっと整備してきてくれたおかげだ」と将来言っていたらと信じて、これからも良い森林づくりを実践して参ります。



『森の道具屋』はこんな店

森の道具屋では、農林業用機械・資材を始め、薪ストーブ用品や薪割り、キャンプ道具など「田舎で働く・暮らす・遊ぶ」のに必要な道具を取り揃えております。

近隣にはコメリやコーナンなどのホームセンターがありますが、草刈り機やチェーンソーなどは安価なそれとは違い、少し高くはなりますがご使用いただくとパワー・耐久性など、その違いがハッキリと感じていただける商品ばかりを取り揃えております。ご購入後のアフターケアもホームセンターのそれとは全く違いますので、ご安心ください。

また、地域密着店舗として、店頭の商品販売はもとより、田畑の獣害防止柵などの設置においても、現地確認の上、その地形にあった柵の種類や設置方法をご提案するなど、ホームセンターには出来ないサービスを提供しております。

田舎で「働く・暮らす・遊ぶ」のに欲しい道具がありましたら『森の道具屋』へお越しください。

松くい虫予防のご案内



松枯れは、カミキリ虫を媒体として、マツノザイセンチュウという線虫が松の木に侵入することにより、その松が枯れてしまう虫害を言います。

これを防ぐためには、松にグリーンガードという薬剤を注入し、マツノザイセンチュウの増殖を抑えることが大切です。

毎年1月に薬剤の樹幹注入を行っておりますので、これまで一度も組合にご依頼いただけていない方で、注入を希望される方がおられましたら組合へご一報くださればと思います。

シイタケ菌・ナメコ菌のご案内

原木栽培のシイタケやナメコは、味が格別です。ぜひ原木栽培にチャレンジしてみませんか。

森林組合では、シイタケ菌（駒菌）や菌を植菌した原木も販売しております。ホームセンターでも販売されておりますが、よりお安く販売しておりますので、是非当店でのお求め下さい。



総務課

こんなご相談は総務課へ

総務課は、組合員の皆様に対して森林組合のサービス全般のご説明や、各種手続きのご案内など、山林についてのどんな事にでもお応えする、言わば山林の『総合案内所兼相談所』といった役割を担っております。

そんな総務課に最近多く寄せられるのが「山林を相続したけど、この先どうしたらいいの？」や、「山林を所有してるけど、売れるなら売りたい。」というような内容です。

たしかに、故郷を離れて会社務めをされていた方が、いきなり相続によって山林を所有されることになれば「えっ、これどうしたらいいの？」となりますよね。それに、収入が生まれずに、固定資産税を払っているだけでは「何のメリットもないがな」と、土地ごと売ってしまいたいと思われるのも無理はありません。

そんな方々へ、森林組合としてお手伝い出来る事を提案するのも私たち総務課です。

始めの一步は境界確定

所有山林について、森林組合が森林整備のご提案をさせていただくにしろ、土地ごと別の方へ売却されるにしろ、必ず『境界』を確定しなければなりません。所有山林の境界がどこからどこまでということを、現地にて確実に明示しなければ、森林整備も売買も前に進みません。もし「そんなん知らんわあ」という方がいらっしゃいましたら組合へご連絡ください。境界確認のお手伝いをさせていただきます。



山林売買も組合へ

日吉町森林組合では、山の手入れはもちろんのこと、山林売買も行っております。ただしこれは「組合員限定」のサービスとなります。

また、山林価格は宅地や建物と違い相場というものがなく、高いにしろ安いにしろ業者の言い値になるのがほとんどです。森林組合独自の山林価格の算出方法がありますので、売ってしまわれる前に一度ご相談いただき、比較検討していただいた方がよろしいかと思えます。

日吉の豊かな森林を守りたい

森林組合として一番避けたいのは、立木を全て伐って(皆伐)しまっ、その後そのまま放置されてしまうことです。

環境に良くないことは確かですし、昨今の巨大化する台風などの集中豪雨により、土砂災害を引き起こす可能性が高まります。そうなることは何としても避けたいと考えております。

(右写真は vahoo ニュースより引用)



スギ	中目	4m×18~24 cm	¥ 14,000~16,000	スギ中目材に動きがあり、20,000 円/m3 を超えました。 合板材については、雪のシーズンを迎えることから、集めお気に入りののか、高値で引き合いが続いています。
	〃	4m×24~30 cm	¥ 18,000~20,000	
	柱	3m×16~20 cm	¥ 13,000~15,000	
	〃	6m×16~20 cm	¥ 13,000~15,000	
	元木・良材	4m×24 cm上	¥ 35,000~40,000	
ヒノキ	中目	4m×18~24 cm	¥ 28,000~30,000	
	〃	4m×24~30 cm	¥ 30,000~33,000	
	柱	3m×16~20 cm	¥ 13,000~15,000	
	〃	6m×16~20 cm	¥ 15,000~18,000	
	土台	4m×14~16 cm	¥ 25,000~28,000	

新春号恒例の「大犯土表」です。

「大つち」、「小つち」、「土用」の各日は、土を司るといわれる土公神が土の中にいるため、土をいじると災いが起きる期間とされています。

この期間に木を伐ると、虫が入り腐りやすくなり、逆に伐った木などを早く腐らせたい時は、この時期に伐る方がいいと言われています。

月	大つち	小つち	土用	木の採れる日
1	17~23	25~31	17~31	1~16
2			1~3	4~28
3	18~24	26~31		1~17
4		~1	17~30	2~16
5	17~23	25~31	1~4	5~16
6				1~30
7	16~22	24~30	20~31	1~15
8			1~6	7~31
9	14~20	22~28		1~13/29-30
10			20~31	1~19
11	13~19	21~27	1~6	7~12/28~30
12				1~31

編

集

後

記

『森林だより』については、以前より「大きくリニューアルしてはどうか」という意見が組合内で出ておりました。と言うのも、書き手が長年固定化され、また、記事の内容自体も発行の時期による違いはあるものの、例年と比較すると新鮮味がなく固定化された内容になってしまっていたからです。それに、20代の職員が増え、フレッシュな風が吹き込んできましたので、「『森林だより』にも新しい風を」ということで22年目の大刷新となった訳です。

様式に少し違和感があるかも知れませんが、発刊(昭和63年)当初の思いは変わることなく、また、これまで以上に森林組合の活動や森林・林業について興味を持っていただけのような、そんな『森林だより』を作っていきたいと考えております。

内容、様式とも未完成で読みにくい部分があったかと思いますが、改良を重ね、より読み易くしてまいりますので、末永くご愛読いただければ幸いです。